

魅力度向上対策特別委員会記録

1 会議の日時	令和 4 年 1 2 月 1 4 日 開 会 午前 9 時 5 7 分 閉 会 午前 1 1 時 3 2 分	
2 会議の場所	議会西棟 3 階第 1 会議室	
3 出席者	委員	委員長 (玉 田 和 浩) 副委員長 伊 藤 秀 光 委員 村 下 貴 夫 野 村 美 穂 布 俣 正 也 伊 藤 英 生 澄 川 寿 之 平 野 恭 子 平 野 祐 也 小 川 祐 輝 森 益 基  ※ ( ) は欠席委員
	執行部	別紙配席図のとおり
4 事務局職員	主査 水 谷 昭 之 主任 脇 若 知 香 子	

5 会議に付した案件	
件名	審査の結果
1 県産材の魅力向上に取り組む県内企業の事例について	
2 その他	

## 6 議事録（要点筆記）

### ○伊藤秀光副委員長

ただいまから、魅力度向上対策特別委員会を開会する。

本日の委員会は、魅力度向上対策の推進に関して、今年度の調査項目としている「世界に誇る『ぎふブランド』の磨き上げと発信に関する調査」について、協議するため開催したものである。

議題は、「県産材の魅力向上に取り組む県内企業の事例について」である。

本日は、執行部からは、議案に係る所属に出席いただいております。また、現状等を報告いただくため参考人として、協同組合東濃地域木材流通センターからセンター長の片田岳史様、設計室管理建築士の小木曾正富様のお二人にお越しいただいております。

片田様、小木曾様におかれては、大変ご多用のところお越しいただき感謝申し上げます。

それでは、早速、「東濃ヒノキの産地における、県産材需要拡大の取組」についてご報告いただく。

ぜひ、活発な意見交換ができればと思うので、よろしくお願いする。

質疑については、報告終了後をお願いする。

（参考人挨拶・説明：協同組合東濃地域木材流通センター

センター長片田岳史、設計室管理建築士小木曾正富）

### ○伊藤秀光副委員長

報告に対する質疑はあるか。

### ○村下貴夫委員

流通事業者として、設計サポートやイベント開催などを通じて地域の工務店を支援しているというが、支援に掛かる経費はどうしているのか。

### ○小木曾参考人

設計サポートは有料で行っている。一方、イベントや勉強会等は、国の補助金や多少の参加事業者負担はあるものの、基本、本組合の負担により開催している。

### ○村下貴夫委員

ウッドショックの影響はあったのか。

### ○片田参考人

本組合においては、木材の在庫がなくなるなど大きな影響があった。業界全体においても、木材製品の価格が高騰し、中には便乗値上げをする事業者もいた。しかし、本組合では製材工場の協力を得て、原木価格の上昇分程度に抑えることができた。

### ○村下貴夫委員

現在は、木材製品の価格は下がっているのか。

### ○片田参考人

原木価格は下がっているものの、製材工場の燃料代や電気代が高騰していることから木材製品の価格は下がっていない。

### ○野村美穂委員

東濃桧の美しさは理解しているが、耐久性はどうか。

### ○片田参考人

耐久性について、数値的根拠はないが、姫路城などに使われており品質は評価されていると考えている。

### ○野村美穂委員

工務店が施主に対して東濃桧の使用を勧めても、輸入材との価格差により使用してもらえないのではないか。

○片田参考人

本組合から工務店に提供している東濃桧は、輸入材と比較して価格差がほとんどない。

○野村美穂委員

姫路城などに東濃桧が使用されているとのことであるが、全国で東濃桧を使用した建築物は他にもあるか。

○片田参考人

京都の寺社仏閣などでも使われていると聞く。

○平野祐也委員

製材工場から工務店への直送販売が増加していると聞かすが、貴組合における木材の取引量はどう変化しているか。

○片田参考人

本組合の取引量は増えており、毎月1,000m<sup>3</sup>~1,200m<sup>3</sup>程度販売している。

○平野祐也委員

製材工場からすれば、名古屋の市場の方が高値で木材が売れるのではないか。

○片田参考人

名古屋の市場は本組合と比べて販売手数料等が高いため、同じ販売価格であれば本組合を選んでもらえる。また名古屋の市場では、売れないと値下げ販売をするが、本組合は安易な安売りはしない。

○平野祐也委員

木造建築の設計士の育成が必要であると考えているが、大学では木造設計を学ぶ機会が少ないと聞く。どこなら学べるのか。

○小木曾参考人

本組合で開催している構造塾をはじめ、岐阜県立森林文化アカデミーなどで学ぶことができる。

○小川祐輝委員

貴組合では東濃地域ゼロエネルギー住宅を提案しているが、関係する工務店に広がっているか。

○小木曾参考人

10年程前に土壁を利用した高断熱のモデルハウスを建て、その後も、国交省の長期優良化住宅の支援などを受けて取組を継続しており、白川町や名古屋市内の工務店にも広がっている。

○小川祐樹委員

瑞浪市内の中学校では、ゼロエネルギーの校舎が建っている。ゼロエネルギー住宅の建築にはノウハウが必要と考えるが、何が大切なのか。

○小木曾参考人

ゼロエネルギー住宅の建築には、しっかりとした断熱処理を施し、きちんと施工することが大切であり、気象条件等を踏まえた断熱材やサッシの使用など、基本的なことを理解すれば建てることことができる。

○森益基委員

貴組合では、恵那市外にもゼロエネルギー住宅のモデルハウスを建てているのか。また、50km圏外への販路拡大を考えているか。

○片田参考人

恵那市外ではモデルハウスは建てていないが、ノウハウを学んだ工務店が愛知県や石川県で建てているため、そうした工務店を通じて県外へも広がっている。

○森益基委員

恵那市外で、中・大規模の非住宅施設を建てた実績はあるか。

○小木曾参考人

そうした実績はないと思われる。

○村下貴夫委員

東濃地域木材流通センターのような取組を行っている他の事業者は県内にあるのか。ないのであれば、ぜひ広めていただきたい。

○片田参考人

県内に同じような取組を行う事業者はない。県の協力を得つつ広げていきたい。

○布俣正也委員

東濃桧をPRするにあたり、飛騨の匠の技のようにストーリー性を持たせつつ、その魅力を広めていくとよい。

○伊藤秀光副委員長

北海道や鹿児島県からの購入事例があると聞いたが、輸送コストなどを考慮しても東濃桧が選ばれる理由は何か。

○片田参考人

コストよりも東濃桧のブランド力に魅力を感じて購入する方もいる。

○伊藤秀光副委員長

質問等も尽きたようなので、報告については終了する。

片田様、小木曾様、貴重なご報告をいただいたことに感謝申し上げます。

以上で、本日の議題は終了したが、この際、何か意見はないか。

(発言する者なし)

○伊藤秀光副委員長

意見もないようなので、これをもって、本日の委員会を閉会する。

# 魅力度向上対策特別委員会 配席図

令和4年12月14日(水)午前10時～  
議会西棟第1会議室

出入口

				県産材流通課 木造建築推進室長 古沢 弘康				
森林経営課長 長谷川 雅樹		森林活用推進課長 城戸 脇 研一		観光国際局長 丸山 淳		観光国際局副局長 堀 智考		観光企画課長 渡部 達弥

傍聴席

小川 委員  
平野(恭) 委員

伊藤(英) 委員  
野村 委員  
伊藤(秀) 副委員長

布俣 委員  
村下 委員

森 委員  
平野(祐) 委員  
澄川 委員

【参考人】  
協同組合東濃地域  
木材流通センター  
センター長  
片田 岳史

【参考人】  
協同組合東濃地域  
木材流通センター  
設計室管理建築士  
小木曾 正富

出入口

議会  
事務局

スクリーン

議会  
事務局